

いじめ防止授業

(平成二十七年九月)

今も残る心の傷痕

「あのさー哲ちゃん、高1の時の『あの件』覚えてるね？」還暦同窓会の席で数十年前ぶりに会った友が。杯を片手にぼそと言った。

高校の授業が終わり、親しい3人連れでの帰り道。学校裏の生け垣が揺れて、中から2人の他校生が顔を出した。そして友だけを手招きした。しばらくして戻ってきた友の顔は真っ赤になっていた。

「俺はあの時、なぜやり返さなかったのかと、今でも思うんだ」。当時を回顧しながら、友は悔しそうな表情で語った。やはり「あの件」は、彼の心の中に深く突き刺さっていた。暴力やいじめは、受けた者にとって消したくても消えない傷痕として残る。実は私もこの年齢になるまで、「あの件」を時々思い出しては、自分のふがいなさを悔やんできた。あの時なぜ自分は、友と一緒にいて行くなり、職員室に報告に行くなりの行動をとれなかったのか。「あの件」は私にも情けない心の傷として残った。「あの時はどうしていいかわからなくて、申し訳なかったね」。友にわびつつ交わす杯だったが、なかなか酔えなかった。

(朝日新聞「男のひといき」に平成二十七年八月二十三日に掲載された佐賀県鳥栖市の無職六十二歳の方の文章)

いじめ防止授業を終えて

【一年生】

この新聞の記事を読んで思ったことは、こんな昔からいじめはあったんだと思いました。この場にいた人はどうしていいか分からなかったと言っているけど、自分もこの場にいたらどうしていいか分からなかったと思う。このいじめを受けた人は今でも覚えてるほど、ひどいことをされたんだなと思った。もしも、自分が同じ場面になったら一緒にいて行くか、友達と一緒に逃げようと思った。こういうことはもう起らないでほしい。

まず二対一で暴力をふるったという時点でひきょうだと思いました。残った二人の友達が助けに入ったりすれば後悔することはなかったと思いました。いじめはやった方はすぐに忘れてもやられた方はそんなにすぐには忘れられないと思います。やった方は軽い気持ちでもやられている方はすごく傷つくと思います。このことを読んで改めていじめはよくないことだと思いました。もし僕がやられたらすぐには忘れられないと思います。僕はいじめを止めたいです。

私は暴力等のいじめに関わることは少ないと思う。しかし第三者になる可能性はある。そのため、発見した際には何かしらの手段で止めるべきだと思う。

以前教室で、じゃれ合いをしていた生徒達を見かけた。初めは何も感じなかったが、じゃれあいが見えなかつた。

なぐり合いに発展した。私は何もできなかったが、止めに入っている人は凄いなと思った。

私は止めに入ることは難しいと思うが、先生に報告するなどし、何かしらの行動をとりたい。

いじめが起きる理由は分からないけど、何があっても人をいじめることはやってはいけないことです。一対一のけんかではなく、二対一などのいじめはひきょうです。

いじめを見たことはないけど、もしかしたら裏で、いじめが起きているかもしれないと思うと、怖いです。

もしいじめているところを見かけたら、先生に伝える等、自分にでも出来ることはしようと思います。いじめが増えないようにしたいです。

私は、この授業を終えて、身近な所でいじめが起きたらすぐに止められるような人になりたいと思った。

なぜなら、いじめはいつでも起きるから分からないことでも、もしそこでいじめを止められなければ、いじめられた子は一生心に傷を負い続けてしまうからだ。

これからは、ただ見ているだけの第三者ではなく、止めることができるような人になりたい。そして、いじめを見たら止めるよう心がけたい。

この授業を終えて私は改めていじめはいけないと思いました。もし、誰かがいじめられていたら、止めようと思いました。

六〇歳の方が四〇年以上前のことを覚えているなん

てそれほど、心の傷として残ったんだなと思いました。それと、二人で一人のことをいじめたりなぐったりするとは、ひどいと思いました。

もし、私の友達がいじめられていたら、すぐ、止めようと思いました。回りの人に声をかけてみたりして、いじめをなくしたいです。

私は、絶対に人をいじめたりするような人間になって後を後悔したくないです。

理由は、人をいじめて何が楽しいのか分からないからです。人をいじめて楽しかったとしても相手側が嫌な気持ちになるだけだから、得は何もしないので、私はいじめを絶対にやりたくないです。

これから、私はいじめる人間を見たら、いじめられている人を助けてあげたいと思います。私は人生一度きりなので胸を張れる楽しい人生を送りたいです。

私はいじめほど汚いものは無いと思う。人を傷つけ、つけられた方が泣いていようが何をしようが、つけた方は笑っていられる。

そして、傷つけた方は自分のみにくさに気が付いていないのだと思う。自分を汚していることに気付いていないから出来るのだと思っている。

なので、自分が何かをする前に、一度しっかりと考えることが必要だと思う。そして、誰かが人を傷つけるような行動をとっていたら、止めるべき。

いじめは絶対にやっちゃいけないと改めて感じました。暴力は、やっちゃいけないくて、その人の一生の傷にもなります。いじめも一生の傷になります。

そして、後で何で「うしろなかつたんだろ」…。と後悔する人もいます。

これを書いた人も、後悔して悩んでその気持ちのまま何十年もたっています。こんな思いをする人もいます。だから、「いじめ」はいつの日か絶対になくさないとけないなと思います。

この文章を読んで、いじめはいつまでたっても心の傷として残ると分かった。

もし、いじめを見たら、大人に言ったり、いじめられている子を助けたりしたいと思った。その子が助けを求めているなくても、すぐさま助けたいと思う。大人になって自分やその子も後悔したくないからだ。

改めていじめは決してやってはいけないことだと思った。いじめを見たら、見て見ぬふりをするのではなく、すぐさま正しい行動に移りたいと思う。

僕はあまりいじめを見たことはないけど、あるということ、自分がいじめられてどんな気持ちになるか知らない人がいっぱいいて、またいじめられている人の気持ちに分かってないということになる。僕はそんな現実がすこくいやです。いじめられた時のその傷は一生残るものであつて、そう簡単に治せない。

僕はそんなことを考えると心が痛くなります。もしも、

この学年でいじめがあるなら、それを止められるような立派な人になりたいです。

僕はこの授業を受けて、変わったことがあります。それはいじめに対する考えです。

他校の人に暴力などをされているのは、見たこともありません。でも、この授業でやられた側の人の気持ちになつて考えてみました。その人が六〇年間忘れられない深い傷痕があるなんて、とてもつらかったんだなと思いました。

僕もそんなことはしないようにしたいです。もしもし友達がしようとしてたり、されてたりしたら、止めてあげたいです。

私は、この話を聞いて最初からイジメというものをなくせば良いと思いました。でも現実はその簡単に直らないと思つたので、まずは自分が友達をイジメないようにこれから気を付けていこうと思いました。イジメということとは悪いことなので、そのイジメもなくなりたいし、『イジメ』という言葉もなくなりたいです。

同じ人間なので相手の心を傷付けるようなことはしないように。この、六十二歳の方もまだ覚えてるので絶対に人を傷つけないと改めて思いました。

今回の話を聞いて私はひどく心を痛めました。それと同時にいじめは改めてしてはいけないなと思いました。

まず一つ。ずっと心に残る。この話のように何年もたつ

た今でも心に残ってしまう。もう一つ。いやな思い出なる。まあ当たり前のことだけれど、いじめをすることによって自分も相手もいやな思い出として、相手にとつたら傷として残る。

今回の話でやつぱりいじめは残酷だと思いました。これからもいじめをなくしていきたいです。

僕は、この文章を読んで、新しいことを知りました。それは、いじめを見た、または知った人にも、心の傷が深く残るということです。

なぜそう思ったかと言うと、「あの時なぜ自分は、友と一緒にいて行くなり、職員室に報告に行くなりの行動をとれなかったのか。あの件は私にも情けない心の傷として残った。」と書いてあったからです。

しかし、この授業ではその考えがあまり出てこなかったので結構驚きました。

私は、いじめの話聞き思ったことがあります。軽い気持ちでやっても人によつて深く心に残る人もいる。消したくても消せない傷痕として残ることは皆同じことかもしれないけれど、相手によつて、もつと深く傷付く人も中にはいる。それを考えずにいじめをする人を私は最低だと思いました。私はもしいじめられている人がいたら、いじめている人を止めようと思いました。私はいじめをしないようにしようと思いました。

この授業を終えて、いじめは他人事ではないと思いま

した。

いじめというのは、どこでいつ起きるのか予測のできないことで、今、私の通っている中学校でも起きることかもしれない。そう考えるといじめを見て見ぬふりをしてしまうかもしれません。

しかし、いじめられている人の立場をよく考え、担任の先生に報告する等、自分の出来る最大限の行動を取らなければなと思いました。今後、いじめは減ってほしいなと思いました。

この記事を読んで、いじめたことを忘れていても、いじめられた人は深く傷つくと思いました。

他校生はのりでやつたり、軽い気持ちでやつたかもしれないけれど、「哲ちゃん」とっては辛い出来事であり、深い傷となっています。

私は、いじめにあっている人の周りの人が、いじめにあっている人を支えることが出来ると思います。少しでも自分に来ることがあれば、その人の為に何かをしたいと思いました。

僕は、今日いじめについて一つ学びました。それは、自分は平気でも他人は傷付いているということです。

いじめは、他の人とおもしろがつてやると思いますが、他の人の傷が分からないと思うからです。そして、気付けないとどんどんエスカレートしてしまうと思います。

この授業で、僕は他の人の気持ちを考えて行動しようと思いました。そして、変なことをしないように考えて行

動したいです。

この授業を受けて、改めていじめはだめだと思いました。

ぼくはいじめを受けたりしたことはないけど、小学生の時にいじめをしている人がいて、それを見て見ないふりをしていて、この授業を受けてだめだと思ったし、こういういじめ等は起してはいけないと思いました。

僕は、この授業で学んだことを活かし、いじめ等を起こさないようにしたいし、いじめに参加しないようにしたいと思いました。

この『いじめ防止授業』で私は「いじめを見て、何も出来なかった人」の気持ちを考えてみました。

いじめを見て、やり返したいけどどうすればいいのかわからなくて、後悔をした。やり返せば良いのと思う私も、そのようなことが起きたら何も出来なかったと思う。後悔は一番辛いから、私は出来る限り友を助けてあげたいと思った。

いじめは「悲しみ」と「後悔」が増えるだけのひどい言葉だと私は思った。いじめは嫌だ。

今回の授業で「後々悔いとならないように、正しい行動を取る。」ということを学んだ。

実は僕も一つ悔いが残っていることがある。それは、小学校の時に、暴力や「いじめ」を止められなかったことだ。最後には解決したのだが、僕がもつと早く言つて止めてい

たら心の傷を深くすることもなかっただろう。

今日のことから、自分のことだけではなく周りのために考える。ということも大事だ。それは正しい行動をとることなのだ。

いじめは無くそう、いじめは無くそうと言っているけど、実際には無くならないと思います。結局、いじめは無くそうと言っているけど、新聞やテレビなどで、報道されています。でも一人一人無くしていくことが必要だと思います。そうすればいつか、いじめが無くなると思います。

一回いじめをしてしまったことがある。あの時に止めて先生に言うておけば、心に深い傷ができなかったと思う。一つ一つ考えて、これからも、いじめが無くなればいいと思います。

自分は、心の傷はどんなに時がたってもいえないんだなと思います。

自分もいじめを見て見ぬふりをしていたことがあったから、この話は良く分かります。さつさと忘れたい思い出だけと忘れられないからです。自分も同じ経験があるから分かるけど、止められなかった自分も悔しかった時があったからです。

自分も見えて見ぬふりは、絶対にしたくないです。もし、してしまったら悔しい気持ちしかないからです。

私は、いじめを見たり、知ったりしたら、しっかりと適

切な行動をとりたいと思いました。

理由は、上の文のように、年をとってその時に適切な行動をとればよかった、と悔やむのなら、しっかりと適切な行動をとればいいと思ったからです。そうすれば年をとっても悔やまないでいいし、いじめを受けていた人もしていた人も助けられます。

私は、このような理由から、いじめを見たり、知ったりしたらしっかりと適切な行動をとりたいと思いました。

傷も後悔も消えないと思います。

理由は、いじめられて言えなくて、助けてって言えなかったのもつらいし、何かを言ったり暴力も、全部傷になつて消えません。そんな友達を助けられなかった、何も出来なかつたら後悔しか残らないからです。大切な友達を助けられなかつたら、後悔しか残りません。

自分は、いじめを見て見ぬふりをしていました。でもこれからは先生に言ったり、間に入つて止めようと思います。

【二年生】

この授業を終えて、やっぱり暴力はいけないことが改めて良く分かりました。

もし友達が暴力をふるわれたら、助けられるか分かりません。だけど、がんばって友達を助けたいです。助けられなかつたとしても、職員室に行ったり、僕が友達の助けになることをしてあげたいです。がんばります。

この授業をして後悔するようなことは、しないように

しようと思いました。出来るようにがんばります。

いじめ防止授業を終えて、いじめはやられる方だけでなく見ていることしか出来ない人達にも心に傷が残ってしまうようなことだと思いました。

今日の話では、哲ちゃんも友もすぐ後悔していたけど哲ちゃんもすぐ怖かったんだろうなと思いました。でも、助けに行くことが出来なくても自分の出来ることを見つけて何か行動を起こすことは大切だと思いました。

私は今後自分の出来ることを見つけて行動したいです。

私は、この記事を読んでいじめの見て見ぬふりをしてはいけなくと改めて痛感しました。

いじめを見た場合に先生に報告したり助けを呼んだりするの、確かに大変なことです。報告したことがいじめた側に知られた場合、逆恨みされ自分にも危害が及びます。報告しなければ、後悔や自責の念にかられ、つらい思いをします。

今後、私はどんなことがあったとしても、いじめを見た時は先生に絶対に報告をし、いじめを防止していきたいです。

私は、この授業でいじめが目の前で起きても動けないかもしれないんだと思いました。いじめられた友達の気持ちになつて良く考えて行動すれば勇気を出して言える気がします。

私だったら、勇気を出せずに一生後悔しそうです。で

も、そんなことをしたら友達に会う度に心の傷が深くなりそうなので、私は絶対にいじめを見かけたら誰かに言いたいです。

これからは、もつといじめについて考えていきたいです。

私は、いじめられたことは一生心の中に残ってしまい、自分を苦しめるのだと思います。

なぜなら、悔しかった思い出、つらかった思い出は絶対に忘れないし、忘れてはならない思い出だと思うからです。

私は、これから絶対に他人をいじめたり、無差別な暴力は、与えません。また、自分がいじめられたら、周りの人に相談し、助けを求めたいと思います。そして、友達がいじめや暴力を加えられていたら、助けたり大人に助けを求めたいと思います。

やった方はすぐに忘れてしまっても、やられた方はずっと覚えていて、傷付いているんだと思いました。

ずっと心に傷があるまま生きていくのは、とてもつらいことだと思います。自殺をしてしまう可能性もあるのだと、加害者に分かってほしいです。

誰も傷付かない世の中にするのは少し難しいと思いますが、いじめを無くせば少しは変われると思います。なので、今後にも人に暴力やいじめをしないようにしていきたいです。

「あの件」と言うだけで思い出してしまう、その恐怖感

とトラウマは、心の傷痕として残る。

「あの時なぜこうしなかったのか」という傷痕が、その子の友達にまで残るということを知った。友達の方が苦しいと思う。

その子も友達を助ける手はあつたはず。でもそれを実行出来なかつたくやしきはその場のどんな人も感じることの出来ない苦しみや心の痛みだと思っている。

いじめ防止授業でたくさんの方が学べました。

いじめは、いじめられていた人もいじめを受けていた人の友達でも忘れられない心の傷がついてしまうものだということが分かった。また、いじめを受けていた人の友達は大人に助けを求めたり、友達と一緒に رفتり、たくさんの方でいじめから助けられることが分かった。

この授業を通していろいろなことが分かったので、もし身近にいじめられている人がいたら助けてあげたいと思います。

この授業で、いじめに関しての考え方は人それぞれ違うということを知れました。

今まではいじめられた側の人が一番心に残つてると思つてたけど、それを見ても助けてあげられなかつた人も心に残つているということを知れました。

だから、これから先いじめを目にしたらそのままにしないで、誰かに報告するか止めに入るか何かしら助けてあげたいと思いました。それと、絶対にいじめは何があつてもしてはいけないと改めて思いました。

いじめられた人だけでなく、見ていた人も、ずっと心に残るくらい悔しかったりするけど、いじめた人の方は、覚えていないんだろうなと思った。

自分がもし、このような状況だったら、助けに行ったり、他の人にすぐ伝えられるかなと思った。どうしたら良いか分からないと思うけど、すぐに、何か出来るようにしたい。

これから、もしも、こういうことがあつたら、助けたり出来るようにしたい。いじめがなくなるようにしていきたいと思う。

この新聞を読んで私は一番傷付くのはもちろん友達の方だと思った。けれどもこのいじめを見た人も同じくらい傷付きとても心に残つたと考えた。

もし私がこのような場面にあつたら最初はとてもまどうと思う。しかしそこで冷静に考えなくてはいけないなと思った。すぐに先生に知らせたり、周りにいる大人に言うなどという行動をとりたい。

今、ニュースでよくいじめという言葉聞く。見て見ぬふりはせず正しい行動をとりたい。

『あの件』は(友)の心に消えない、辛くて悔しい記憶となつているのがよく分かる。

(友の顔は真っ赤になつていた)この文章からは痛々しさや伝わつてきて、読んでいる側まで痛くなるような表現になつている。(友)の話は後悔しているのがよく分かる。

(私)の話も自分が情けない、ふがない気持ちがよく分かる。

この文章を読んで私は、いじめ、暴力は決してだめだと改めて思った。今後からも人の気持ちを考えて行動したい。

僕は、少し前まで『いじめ』は暴言を吐いたり、暴力をしてみたりすることだと思っていました。しかし、最近だとケータイでのメールやインターネットなどの書き込みでの『いじめ』がとも増えています。

そこで僕は、もつと責任を持った方がいいと思います。ネットの中では、子ども大人も一人のユーザーとして認識されています。もつと自分達は、ノウハウを見に付けていた方がいいと思いました。

僕はいじめや暴力は軽い気持ちや冗談でもいけないと思います。

いじめや暴力は上の文の通り何十年たっても心に傷を残すし、友達も何もしなかったから、後になって後悔することになったと思います。いじめをしても相手にも自分にもデメリットしかないと思います。

いじめや暴力は人を傷付けることしか出来ないし、デメリットしかなく後の人生で後悔することしか出来ないで、これからはなくなればいいと思います。

私がこの話を読んで思ったことは、改めていじめは良くないことだと思いました。

私の身の周りでは、いじめはないけど、この話を聞いてとてもひどいことだと思いました。この話にもある通り、いじめは一生忘れないことだと思うので、やられた人は一生悲しい思い出として残ります。なので、いじめをなくしたいと思いました。

私は、もしもいじめが近くであるのを見たり友達から聞いたりしたら、見て見ぬふりは絶対にしないようにしたいです。

『私』の気持ちは、なんとなくだけ分かる。そのことがキツカケで自分がやられたらどうしようとも思うし、友を助けたいとも思った。

他の人の意見としては「いじめられる人にも責任があると思う」という意見があり、同感であった。

自分としては、いじめはなくならない、必ずどこかで起こっているものだと思う。だから、どうしたら無くなるかではなく、どうしたらイジメをケア出来るかを考えた方がいいと思う。

【三年生】

僕は、この「今も残る心の傷跡」という文章を読んで、哲ちゃんの友達が、あの時、何でやり返さなかったのか、と言っていて、僕もその友達の気持ちは分かるけど、その時、やり返さなくて良かったと思います。

理由は、自分がやられて相手にやり返したら、自分だってその相手と同じだと思うから、悔しくてもやり返さなかった友達は良かったと思いました。

僕は今日このことを考えて、いじめられている人がいたら助けたいと思いました。

私はこの文を読んで、やはり暴力やいじめは良くないと思いました。

加害者は、単なる遊びでやったつもりでも、被害者は、本当に辛くて一生残る心の傷が出来てしまうかもしれないのです。それでも相手のことを考えずに人を傷つける人は、そういうことでしか楽しめなくて本当にかわいそうです。

私がどんな立場でも、被害者もいやですが、ぜったいに加害者にはなりたくないと思いました。

私はこの文を読んで、当たり前であるが、やはりいじめは良くないと思った。

私の母は、以前いじめらしきものを目撃したことがあると言った。しかし、母はその時、本当にいじめなのかそうじゃないのか分からず、そして怖かったから何も出来なかったと言っていた。母は、数年経った今もそのことをひどく後悔していた。

いじめをする側は遊び半分で行っているのかもしれないが、その被害者や目撃者を苦しめる。だからいじめは良くないと思う。

今回この文を読んで、私はいつまでもいじめは消えないものだと思います。

他の人に意見を聞くと、皆私と同じような意見でした。

た。そして私は、改めていじめはダメだと思いました。

今後は、自分達の学校にも起こるかもしれない。もしくは自分がいじめを受けるかもしれない。ということ胸に、いじめがあれば止め、いじめを起さないように、他人ことだと目をそむけないようにします。そして人のことを考えた行動をします。

私は、今回このいじめの話聞いて、いじめはされた方は何十年経つたとしても忘れないということを知りました。

この新聞の人は伝えなかつたことを後悔しているが、この人の友達はやり返さないことに対して悔やんでいました。でも、またやり返しても、あまりいいことは無かつたのではないかと思います。

この話を聞いて、私は今後もし大切な友達がいじめられたりしていたら、手を差し伸べ助けようと思いました。

いじめや暴力は、絶対にしてはいけないと思いました。

今日の授業の話は違ふけれど、もし暴力をした人が捕まってしまったら、その人の人生が壊れてしまうし、暴力を受けた人は何十年経つても、悪い意味で心に残ってしまうからです。

今日聞いた話よりも大きいいじめ、小さいいじめがあると思いますが、大小に関わらず、いじめはしてはいけないと思いました。もしいじめや暴力を見たら、自分で止めるか、誰かに相談したいです。

僕はこの話を読んで、この友を助けられなかつた哲ちゃん、この何十年間そのことを思い出す度にあの時どうしてやり返さなかつたんだと、今までも、悔やみ続けているんだなと思いました。

僕はやっぱり、いじめや暴力は良くないと思いました。理由はいじめや暴力をされた人はそれが心の傷として残ってしまうと思いました。

もし、今後自分の身の周りがいじめや暴力が起きていたら絶対に止めようと思いました。

班で話して、いじめや暴力はしてはいけないと、改めて思った。友達がいじめられているのをすぐ助けてあげるようにしたい。

私が友達だったら、怖いし助けて欲しいと思う。一緒にいたのに助けてくれないのは、なぜ助けてくれないのかと思う。

いじめや暴力は絶対にいけないことで、誰も良い思いをしないし、いじめた側もいじめられた側も傷として残る。いじめや暴力が起らないように気を付けていきたいと思った。

私は文章を読んで、改めていじめや暴力が良くないことだと思いました。

自分は、いじめや暴力を受けたら、辛い記憶として残ってしまうと思ったけど、友達の見えから助けられなかった人にも辛い記憶として残ってしまうと気付きました。たくさんの人が傷ついてしまういじめや暴力は、自分

では絶対にしてはいけないし、人がしていてもちゃんと注意出来るような人になっていきたいと思いました。

僕はこの授業で、改めていじめは良くないと思いました。

いじめや暴力は、受けた人にとっては、心にもものすごく傷を付けることになるからです。いじめをした人は、心に傷も付かず軽く考えていても、受けた人にとっては、一生心に残るからです。

今後このような場面の際は、相手にやり返したりはせずに、すぐに近くにいる先生や大人を呼ぶなどの行動をとって、いじめや暴力を無くしていけたらいいと思います。

私は上の文章を読んで高校生でこんな目にあつたことを今でも忘れられないのは、とても苦しいと思った。

私の周りの人もまた、ひどい、年月がたつても忘れられないんだなと思つた等の同じ考えを持っていた。

今回、周りの人の考えを聞いて、いじめをしない、させないようによく考え、している人がいたら注意し、されている人がいたら相談につてあげたり周りの大人に助けを求めることが大事だと思った。

私は、この文章を読んで、いじめは何年たつても忘れられないほど、ひどいものだと思います。

他の二人の意見も、いじめは良くないという意見でもとても良い意見だと思いました。

私は、いじめをなくすように努力したいです。男性が経験した、いじめを見たときに、すぐに行動出来なかったというのがないように気を付けたいと思います。また、いじめを受けたとき、誰かに言うことも大切だと思います。

私がお話を読んで思ったのは、あの時友が相手にやり返していたら、どんな事態になっていたのかだ。恐らくもつとひどい目にあっていたと思う。なので友の行動は正解だと思う。

また、数十年経った今も二人とも覚えているということは、いじめはやられている側も見ている側も忘れられない記憶として残ってしまう。

私は、そんな思いをさせたくないし、したくないので、もしそのような現場を見たら誰かに報告をしていじめを止めたいです。

人をいじめることは絶対にしてはいけないことだと思います。

多くの人が同じ意見を持っているのに、なぜ、いじめはなくなるのだらうと考えました。いじめが原因で自ら命を絶ってしまう人もたくさんいるので、いじめは大きな犯罪だと思います。しかし、いじめた側は、笑って毎日を通して許せないなと思います。

もし、いじめを見つけたら、止められる人になりたいです。そして地球からいじめがなくなる日が来てほしいです。

この話を読んで、いじめられている人以外にもいじめのせいで、心に深い傷が残っている人がいるのだと知りました。

また他の人も、いじめている人は何も思わなくても、いじめられている人やいじめを止められなかった人達はとても苦しく心の傷として残ってしまうという意見が多かったです。

今後、もし僕がいじめの現場を見つけたら、いじめている人を止め、いじめられている人を助けていけるようになりたいです。

僕はいじめや暴力は年月が経っても忘れないんだなと思いました。

他の人も「ひどい」や、高校であつたことを今でも忘れられないのは苦しいと言っていました。

やっぱり皆、同じような意見を持っているんだなと思いました。いじめや暴力などは一生心に残るので、これから話す時等も言葉に気を付けていくように努力しようと思いました。それといじめを見つけたら先生等に報告するようにしたいです。

自分の考えは、やられっぱなしじゃなくてやり返しとけば良かったし、やめてとか言っておけば良かったと思う。やめてとか言わないとずっといじめるからだ。

他の人の考えは、過去のことを思い出して後悔しているし、やる方も殴るのは無意味。

今後の行動は自分もやられた立場になって考え、やられる方はこんなにつらいんだなと思って、いじめる方も大人になったら、後悔すると思うから、そういう行動をする。

僕がこの話を読んで思ったことは、他校生に呼ばれた時に全員で行けば良かったと思いました。

他の人の考えは友達を助けてあげれば良かったという考えが多かったです。また、先生等に言いに行くという意見もありました。

今後、自分の友達がこういう風に巻き込まれそうになった時は、自分も付いて行くか、先生等に言いに行くと思います。

この文章を読んで、僕はいじめを忘れることは出来ないと思った。いじめ、暴力を受ければ、それと一生向き合って生きて行かなければならない。それはする側も同じなんだと思う。

他の人の意見ではやり返すなどの行動をすればさらに悪化していたかもしれないので、友の行動は悪くなかったというものがあつた。

この授業で、いじめや暴力を絶対にしないという意識がさらに強くなった。自分の意思を強く持つてこれから生活していきたい。

僕は友達がやられているのに助けなかったのはダメだと思う。

班の意見では、一人で他校生に付いて行つてはいけない、いじめられた方は悲しい、いじめた方が悪いなど、いじめた方といじめられた方の両方について挙げられている。

これを踏まえ僕は、いじめた側に問題があるが、いじめられた側にもその時の行動に問題があると思う。僕は同じような場面にあつても友達を助けられるようになりたい。

私は普段から、暴力事件を見たことがないのでやっている側・やられている側の心理が良く分からない。なのでもしそんな場面にあつたら、何も出来ないと思う。

他の人達の意見は、助ければ良かったのではというものだった。また、救つていれば違う結果になっていたのでは悔しいという意見もあった。

他の人の意見を聞いたあと、対抗するべき、恐ろしくても行動に移すべきだと思った。善良な行動をこれから心がけたい。

この話を聞いて、良い気持ちになる人はいないと思います。単純に、良い話ではないですから。

しかし、この話には、暴力以外の所でも、哲ちゃんという人は、友を助けられなくて後悔しています。そして、他学校の生徒二人はどうでしょう。本当は、今になって後悔しているかもしれません。

これらのことから、暴力をふるつても、誰も幸せなんかになれません。僕はこのことを深く心に刻み、暴力をふ

るつて後悔なんかしない人生を送りたいです。

いじめは本当に良くないと思います。なぜなら、いじめに関わった人は、みんな良い思いはしないからです。しかも、いじめられた方は一生心に残る深い傷になるからです。

僕がもし哲ちゃんだったら、僕も一緒に付いて行ったりすることが出来ないかもしれません。情けない心の傷として残るといふことは後悔をしているということですよ。

僕は後悔だけはしたくありません。これからは後悔しないようにしたいです。

このような出来事を一部の人は、「何てことない」「そのうち忘れる」と思うと思います。ですが、そういう過去はひきずる人がけつこいものです。あの時、二人はどうすれば良かったのでしょうか。

私の考えは「友と一緒に自分も付いて行く」というものです。ですが、二人で行つても、いじめをさけられるとは限りません。

ですから、こつこつた場合は一人で抱えこまず、誰かに打ち明けられると良いと思います。

いじめについての授業を終えて、いじめは何歳になつても残るんだと思いました。

あの件と言われて、すぐに思い出す位に記憶に残っているといふことは、すごく心に傷をおっていることなんだと思います。勇気を持つてやり返すことも必要だと思

いました。

今の日本は、いじめられ、自殺してしまうのが現実なので、もつと厳しく、いじめについて追求することが今の日本では必要だと、この話を聞いて思いました。

どんな状況であろうと、複数の人で一人を殴ったり物を盗つたりするのはいじめに変わりないと思った。

いじめは後になつてあえておけば、こつこつしておけば、と後悔はたくさん出てくるものだが、いじめられている時は怖くて、何も出来ないのが事実だと思う。

だから、なおさらいじめられている人の周りの人間が手を差しのべて、助けてあげなければならぬ、と改めて感じた。

この授業を通して、いじめは一生残る傷でもあり、絶対にはいけないものだと思つた。

他の人もおもしろ半分はいじめはやつてはいけない、ということを発表していて、すごく共感しました。

この考えを聞いて、どんな理由があつてもいじめはしてはならないことだと思いました。そして、自分自身も、もし何があつてもすぐにいじめのようなことをしないで、直接話し合いをしたいと思います。

今回の授業を終えて、いじめをされた人の心や、周りの人の心を知ることが出来ました。

いじめは、いじめている側も見ている側も、止めなければ同類だと思つているので、三人いたのなら、何らかの対処は出来たのではないかと思います。仲の良い友達だ

つたら、大人を呼ぶ等出来ると思います。

後から後悔してその人に謝ったとしても、その人の心の傷は決して消えない。何より止められなかった側にも傷が付くんだと改めて感じました。

私は、この授業をして改めていじめは良くないなと思いました。

班で話し合ったら、自分の意見とは違うのがあり、人それぞれ違うことを思っているなと感じました。上の文を読んでいじめられた人もそれを見た人も、数十年たっても心に傷が残ってしまうんだと思いました。

この授業を終えて、いじめは絶対いけないし、みんなが傷付くと思いました。このことを忘れずに、学校生活を送って行きたいです。

僕は、今回のようなことを体験したことがあり、この人の気持ちは良く分かりますが、人の本能によつて動けなくなったりとかはあつて当然だと思いました。

次に友達だけを呼んだ時に、なぜこの人は、友達を止めようとしなかったのかと不思議に思つて仕方がありません。前の文でも人の本能で動けないことはありますが話す位なら出来ると思いました。

いじめを無視することは、一生心に残つてその友達ともうまくかかれなくなるということがわかりました。

この授業を終えて、改めていじめというものは良くないと思いました。

新聞に載っているように、時が経つても心に負った傷は、消えずに、ずっとモヤモヤして、胸を張つて生きられないのではと思いました。

今後、高校や大学、社会人になると、たくさんの人と会ふことになると思いますが、どんな時も、自分のことだけ考えるのではなく、他人のことも考えて、時には助け、視野の広い人間になりたいと思いました。

私が、もしこの人の立場になつたとしても後悔はしないと思つた。

後悔をしないように友達を一人では行かせないし、何かしらの行動を私だつたらと思う。もし、何も出来ずに心残りがあつてもそれを後悔とは思わない。

終わつたことを後悔しても何一つ変わらないし、自分や周りの人の気分も下げるだけ、でもそれを忘れるのではなく今後に役立てて同じ心残りを作らないようにすればいいと思う。

私は、最初にこの話を聞いて、絶対自分もこの立場だつたら、何にも出来なくて、後々後悔するだろうなと思いました。

他の人の意見を聞いてみたら、私と同じような意見で皆もこの立場だつたらそんな風に思うのかなと思いました。

私はもし今後になつたことがあつたら、後悔しない行動を取りたいと思いました。でも私はこの話を読んでこの人の気持ちはすごい分かりました。この授業を受け

て、いじめには気を付けたいと思いました。